

# 上条 報告

第53号  
平成25年10月

甲州市教育委員会  
☎32-5097

## 上条集落の

## 「上条らしさ」って なんだろう？

上条集落にお住まいの皆様は、上条集落の「上条らしさ」は何だとお考えですか？

現在、市教育委員会では上条集落の保存計画を作成しているところですが、その中で基本となるのが「上条らしさ」の抽出作業です。

保存計画では「らしさ」ではなく「特性」と呼んでいます。現状および調査で判明している集落や建造物の歴史的特性を挙げて、その特性を保護保存していくために保存計画を策定するほか、修理や修景の基準も決めていきます。

「らしさ」特性というものは、地元で生活していると意外と見えにくいかも知れません。その風景やその様子が、日常的には当たり前のものですから。その当たり前前の風景を、集落ごと後世に伝えていく方策が伝統的建造物群保存地区の選定となります。

今号は、こちらで考えてみた「らしさ」特性について特集します。特性の抽出は先述のとおり大変重要な作業ですので、改めて説明会などでお話させていただきます。

### 1 上条集落の特性

- ① 南面傾斜する斜面に開かれた集落である。
- ② 集落と農地は、斜面を雛壇状に造成して確保している。
- ③ 集落は、観音堂を囲むように配置される。
- ④ 農地は、集落の外側に設ける。
- ⑤ 造成地の法面は石垣とする（現在はコンクリート擁壁に改修したところもある）。
- ⑥ 農地の法面は石垣または土羽とする。
- ⑦ 農地は本来は桑畑だが、現在はモモ・スモモ・ブドウなどの果樹園である。
- ⑧ 集落は東側の上条川と、西側の大峰沢で限られる。
- ⑨ 観音堂は、舌状に垂下した細長い台地（金剛山）の、付け根の位置にある。
- ⑩ 金剛山の中間に金井加里神社が鎮座し、南側の東面に真言宗福蔵院が建つ。
- ⑪ 青梅街道から集落に入る旧道は、金剛山の尾根筋を通った（現在は金剛山の東西に新道が通る）。
- ⑫ 集落内には葉脈のような小道が通り、各戸をつないでいる。

### 2 屋敷構えの特性

- ① 敷地は雛壇状の造成のため、基本的に等高線に沿った細長い形状となる。
- ② 入り口は、敷地の東側または西側を通る道路に面して開く。
- ③ 敷地の東側または西側に水路を通すことが多い。
- ④ 敷地境は法面を石垣とし、目隠し程度の植栽をする例が多く、基本的に工作物を設けない（現在はコンクリートブロックやフェンスで囲った家もある）。

- ⑤ 敷地の中央に主屋を置き、蚕室を別棟で建てる場合は主屋に近接して建てる（新しい鉄骨造の蚕室は主屋から離れて建てられる）。
- ⑥ 附属屋は、敷地の状況に応じて適宜配置する。
- ⑦ 屋敷神は石造の祠を屋敷の北または北西に祀る。
- ⑧ 道祖神は集落の上部に位置し、丸石神を祀る。
- ⑨ 観音堂近くの屋敷裏手に目立つ一本杉がある。

### 3 主屋の特性

- ① 明治時代までに建てられたもので、現在十三棟が所存する。
- ② 木造、切妻造茅葺、二階建、平入りを基本として、屋根の中央部を突き上げて二階部分の正面に開口部をもつものが多い。このほかに屋根にスリット状の開口部をもつものや、屋根の半分を突き上げているもの、南側の軒を高くして開口部を作るものもある（現在は茅葺を鉄板で覆っている）。
- ③ 正面に下屋庇が付く（古くは、軒を低く葺き下ろしていた）。
- ④ 平面は桁行七〜十間、梁間三〜四間ほどの規模で、棟を等高線に並行して建てる。
- ⑤ 壁は真壁造として、切妻面では貫をみせる。
- ⑥ 開口部は正面に大きくとり、障子と板戸を備える（現在は障子がガラス戸に、板戸がアルミサッシに取り替えられる）。
- ⑦ 二階部分は突き上げ屋根の正面のほかに、両妻側にも開口部をもつ（当初の建具を残すものもある）。
- ⑧ 二階には梁下げがみられる（養蚕のため、二階の床を下げた二階以上の空間を広くとる工夫）。

## (2) 茅葺以外

- ① 昭和元年～三十六年までに建てられたもので、現在六棟が所在する。
- ② 木造、総二階建、切妻造、棧瓦葺、平入りを基本として、屋根の中央部に腰屋根を設ける家もある。
- ③ 正面に下屋庇を付ける。
- ④ 平面は、規模、配置ともに茅葺の主屋と共通するが、中廊下に改めた家もある。
- ⑤ 壁は真壁造とする。
- ⑥ 開口部は一階では正面に大きくとり、二階では一間おきに開口部をとることが多い。
- ⑦ 建具は木製のガラス戸を基本とし、アルミサッシに変更している家もある。

## 5 附属屋の特性

- ① 附属屋には納屋（物置）、外便所、土蔵、馬小屋（家畜小屋）がある。
- ② 総じて木造、切妻造で、屋根は棧瓦葺と鉄板葺があり、平屋のものと二階建のものがある。
- ③ 壁面は、土蔵を大壁造（土蔵造）とするほかは、真壁造である。
- ④ 主目的が納屋や馬小屋であっても、外便所や物置を併設するものが多い。
- ⑤ 二階建の附属屋の二階は物置として使われている。
- ⑥ 比較的規模が大きい納屋には、妻壁に貫を入れるものもある。

## 4 蚕室の特性

- ① 昭和三十年代までに建てられた蚕室が五棟ほど所在する（実数未確定）。
- ② 木造、総二階建（屋根裏を含むと三階建）、切妻造、棧瓦葺、正面あるいは背面に下屋庇を付ける。
- ③ 平面は桁行五間、梁間二間が多く、主屋よりも小さく棟高も主屋より低い。
- ④ 主屋に近接して建てられるが、配置は主屋に並行するもの、T字にするもの、斜めに置くものなどさまざまである。
- ⑤ 壁は真壁造とする。
- ⑥ 開口部は大きくとらず、各面の半分または半分以上で均等に配する。
- ⑦ 壁には貫をみせる。



「4 蚕室の特性」と「5 附属屋の特性」については、まだ知見が不十分のためうまく表現できません。九月に実施した工学院大学による調査の成果を踏まえて、再考する必要があります。

ひと通り挙げてみましたが、「なんだ、そんなこと」的な内容に感じることと思います。現在のう上条集落についての記述なのですが、中には「現在は・・・である」のような注釈もあるので、全体的には「歴史的な特性」の要素が強く反映されています。

伝建地区選定とは、これらの特性を保護保存するとともに、歴史的な特性に近づけるとか、少なくとも特性を維持する、などに取り組んでいくということだと思います。特性の抽出後は、具体的に修理基準・修景基準・許可基準の作成に入ります。これらの基準によって地区の保護保存が図られるのですが、皆様方の生活にも大きく関係してくるようになります。

九月九日から十三日まで、工学院大学後藤研究室の学生六名でう上条集落内の附属屋について調査をさせていただきました。

今回の調査は、今号で特集している「らしさ」特性」を抽出するためのものです。

期間中、蚕室二棟、土蔵一棟、馬小屋一棟の実測をさせていただいたほか、並行してヒアリングも実施いたしました。

また、ヒアリングの内容として、防災対策についてもお聞きしました。実測やヒアリングがない時間帯については、集落内の水路などをみてまわり、災害時に活用できるかどうかを検討いたしました。

さらに、甲州市消防団神金分団第四部の部長・部員の方々にお集まりいただき、消防団活動の実際などについてお聞きしました。不慣れで不躓な質問もあったと思いますが、ご容赦ください。

地区の皆様方には、日頃のお仕事で忙しい中お時間をいただきました。誠にありがとうございました。工学院大学で報告をまとめましたら、皆様方にも一読していただけるようにしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

